――始まりは、いつも似たような。
「いつかねー、やってみたいんよ。国道一本走破とか。433はやりかけたことあるんじゃけどねー…」
「5周年に放浪記二本立てやってみるか？」
「あははー。いいかもねー」
――月日は流れ･･･

「明日、走りに行かん？」
「突然だなぁ……。いいよ、体調がよかったら」

――こうして、誰に言われるでもなく旅立ちは決まったのだ。

♪~ちゃっちゃちゃー　ちゃらららっちゃちゃー！（ＯＰ）

放浪記シリィズ５

酷道走破記録帳

～R-433の冒険～

その道のりは長く険しい・・・。

されど勇者よ、突き進め・・・！
そなたなら為してくれると信じておるぞよ。

さあ、旅立つのじゃ！

♪~ちゃかちゃかちゃかちゃん！（ＯＰ）

～序章～

彼らの旅立ちは決まった。
西暦２００８年水無月の２４日である。

旅のルートは、右に示した部分。
左下、『大竹（おおたけ）市』の北栄（きたさかえ）みどり橋東詰
を起点に、
中央上、『三次（みよし）市』の三次町（みよしちょう）交差点
を終点とする、『国道４３３号』。（全長約130km）

ふふふ。四百番台国道をナメんじゃないぞ。

その実態は、『酷道』である。

山あり谷あり峠あり。
市街地なんてほんの一分。
離合も困難な山道を含む、田舎道が大半。
ちなみに、その酷道箇所は★の場所付近。
なーんだちょっとじゃん、って思いました？　じゃあ、一区間につき5～10kmそんな道が続くといったら？

そこに挑んだ阿呆勇者？どもが彼らである。

ヘタレ勇者：つかさ・K・主（マスター）（以下：つ）
Lv：7　HP：254　MP：47
装備：免許証、デジカメ、地図、車の鍵
だいじなもの：波零小（ぱぜろみに）

愚（フール）勇者：リチャード・羊（メェ）（以下：リ）
Lv：12　HP：309　MP：12
装備：免許証、眼鏡、勢い
必殺技：『貴様が下がれ！』といいながらバックして道を譲る。

――かくして、冒険の旅は始まったのだ！！！

～第一章～
起点までの道のり

ヘタレ勇者つかさは、『車の鍵』と『波零小』をつかった！
この旅の重要アイテム『波零小』。四駆有のMTで軽、まさに山道の友！
愚勇者リチャードと合流し、

つ「とりあえず、起点までは運転するわ。なるだけ通る道がかぶらんように裏道からね（笑）」

午前10時過ぎ、波零小の体力を回復させ、バイパスと裏道を駆使しておよそ1時間半をかけて起点を目指します。

つ「あ、先に決めとこう。走破のときはバイパスと宮島街道どっち通る？」
リ「そりゃあなるだけ旧道の方がいいでしょー*」
つ「りょーかい*　ってか、私もそうしたいよw　通れる範囲で･･･ね」

渋滞もなく、順調に目的地付近。
最寄と思われるスーパーの駐車場を拝借して、起点の偵察に行きます。

つ「お、あったあった♪」

起点。　大竹市北栄みどり橋東詰。

~~国道~~酷道433号は、起点からしばらくは国道2号と重複している区間です。
そのため、この起点も2号線の只中。
それも、広島渋滞のメッカのひとつがすぐそばにあり、それだけに交通量も多い交差点です。
また、山口県との県境もすぐそばで、岩国～大竹といえば、石油コンビナートや工業地帯として知られており、当然トラックも多く通ります。

どうでもいい知識として。。。

大竹は、岩国と合併したかったんだけど、県境を越えての合併はNG！　と広島県に言われてしまったので、単独市政を選んだとかそうでないとか…。
仲良しパラメーターとしては、電話が上げられる。大竹の電話は、山口が管理しているのだ！
つまり、大竹の市外局番は山口と同じ＝広島と違うのである。

ひとしきり交差点を堪能し、スーパーに戻ります。

リ「飲み物くらいは買ってってあげんとね」
つ「ってか、いい時間だしお昼も仕入れていこうよ」

停めさせてもらったんだもの。ちゃんと買い物もしなくてはね！

食糧を買い込み、ここで運転を愚勇者･リチャードにバトンタッチ。
いよいよ本当の出発です*

～第二章～
国道２号線を行く

つ「さすがに渋滞長いなー…」

目前の起点の交差点にたどりつく…『みどり橋』をわたるだけで一苦労。

リ「よーしいよいよ…」

つ「スタートーォ！！！」

車のキロメーターは、交差点内でゼロに！
時刻は、午後0時過ぎ。

まずは、しばらく2号線との重複区間を行きます。

重複区間は、旧･大野町（おおのちょう）を横断して、廿日市（はつかいち）市　平良（へら）まで。オレンジで示した部分です。

ずっと瀬戸内海沿いで、ＪＲと、宮島口（みやじまぐち）からは市電も並走。ほぼ全域にわたって宮島も見えます。（鳥居が見えるのは限られた場所ですが）

唯一最大…と言っては三次に失礼ですが、一番交通量があり、混んで距離の割に時間がかかる区間であるのも事実。

つ「やっぱり2号線は込むねー…（嘆息）」
リ「この辺ってあんまり来んのん？」
つ「うん。この辺はほら、来るときつかった裏道しか使わなくて（笑）　だって、こんな、込むの嫌じゃん。（キッパリ）」

空気もおいしくないしね。

交通量の多い2号線区間。ほどなく、廿日市市（旧・大野町）に突入です。

つ「宮島って、車で一周はできんのんよ」
リ「ほうなん？　知らんかったー」
つ「あれ、意外…」

つ「宮島はねぇ、島自体が神様なんよ。じゃけん鳥居や本殿が海の上でしょ？」
リ「はぁ！　なるほどねー！」

そうなんですよー。

旧・大野町との町境付近から、大竹方面を振り返って。

リ「はい、でたー！　夢の国（笑）」

ある意味、この辺りでは有名な看板の文字です（笑）

つ「宮島と言えば、あそこの鹿は海渡るんよねー（笑）」
リ「そうそうw　新聞とかテレビとかでその泳いどるとことか映ったら面白いのにねー」
つ「あるよー。見たことある（笑）　カメラ目線で泳ぐ鹿！（笑）」
リ「えー？！　みてみたかったー！（悔）」

名実共に廿日市入り。

合併前の大野町と廿日市市の境付近から大野方面を向いて。

つ「昔はココ、遊園地だったのにねー…」

このあたり、広島では名の知れた『広島ナタリー』なる遊園地の跡地です。
現在はデパートとマンション。
宮島水中花火大会のベストスポットにして、当日は泣くほど混んで帰れなくなる場所。
――もちろん、海を見ればバッチリ大鳥居が小さく見える場所です。

さて。ここで一つの選択肢。
ここからしばらく、2号線はバイパスが本線となり、旧2号線は広島市内で合流するまでの区間を『宮島街道（みやじまかいどう）』と呼ばれています。
しかしこの宮島街道も、旧2号線と言いながら、現役2号線なのです。つまり、2号線枝分かれ。（広島の道路地図でもちゃんと、国道2号線が二股になってる区間があるはずです）

我々はもちろん、取り決めどおり旧道＝宮島街道を行きます。

交差点の名は串戸（くしど）。本線バイパス移行に伴い県道247号と成った道を少しだけ進むと、『433』という始めての記述が！

上平良（かみへら）交差点を越え、よーやく！
酷道433号の単独区間に突入です！！！

～第三章～
一ノ関・七曲峠を越えて

つ「さー、こっからが本番で～」

ここからは廿日市（はつかいち）市の市街地を後にし、交通安全祈願で有名な速谷（はやたに）神社を横目に、★七曲峠（ななまがりとうげ）へと進みます。

カーブの多い山道などにはよく『七曲』という名前がついています。
読んで字のごとく、『たくさん曲がっている』ことが由来と思われますので、全国各地に『七曲』と呼ばれる場所があると思われます。

つまりそういうことです。
市街地を抜けるとすぐ、いきなりの難所。しかも、433号の最高到達点にまで一気に登るのです！

山の中腹で旧・湯来町（ゆきちょう）（現・広島市佐伯区）へと入れば、名実共に田舎道突入でもあります。

酷道433号単独区間は、突入と同時に山登り開始です。
5分もあれば市街地は遠ざかり、いきなり狭い急傾斜地です。

そんな道を、**普通サイズのバスが通るんだっ！！！（汗）**

リ「うおあっ;」
つ「ぎゃー！　いきなり！！」

いやはやまったくもって。
運良く路肩が広いところでよかった…（汗）
さして闘うこともなく、なんとか通過です。

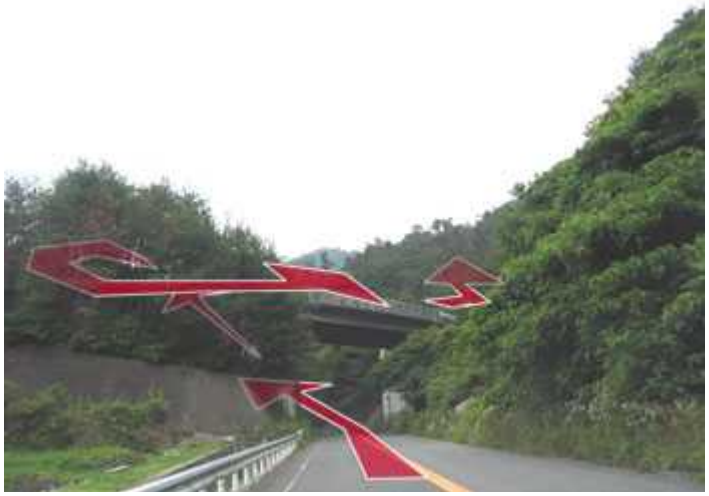
右端の、グリーンと白の車体がバスのおしり。

民家のある急傾斜地を抜けるとセンターラインのついた道に戻りますが、その道もすっごいのw

長野（ながの）ループ。

いっきに山登りは伊達ではありません。

つ「わたしねー、ちっちゃい頃からここ好きなんよ～。通るところが見えてるっていうね（苦笑）」



いよいよ峠が近づきます。

ここからがまさに酷道433号・一ノ関。
山道に突入です。

が。
実はコレ、まだまだ序の口。
生活圏に近く、何度も通ったことがあるので見慣れた景色でもあり、ちょこちょこ利用する人もいるので一台か二台は対向車にも会います。

道慣れない人には酷道で間違いないでしょうが、ってか、普段わざわざとおりたい道ではないですが、こんなんでヒィヒィ言ってたら、二ノ関・三ノ関とんでもなく泣くよ。

というわけで、わりとかるーく進みます。

通るたび気になる『さるわたりばし』。
とうとう写真に収めましたw

はい。サル出ます。
イノシシも。

この山は、極楽寺山（こくらくじやま）。
同名のお寺が山頂近くにあります。

そしてもうひとつ。
宮島水中花火大会の隠れた？観覧場所。
遠く小さくに見えるのですが、近隣住民はありがたくココから見下ろしています。

リ「ほおー。こりゃあたしかに！　いい景色じゃわー」

愚勇者リチャード、何度か通ってるわりに見下ろしたことはなかったようです。
ここで再びハンドルチェンジ。ヘタレ勇者の運転にかわります。
同時に温泉の町、広島市佐伯区（さえきく）、旧・湯来町に突入です。

湯来町に入ると、海も見えなくなり、廿日市側よりも狭い山道になります。狭い場所で対向車に会うこともなく（すれ違える道幅の所では会いました）七曲峠を越え、川と共に下り、ただいま人里！！

湯来町内は、一部あえて旧道を通った以外はほぼ整備された区間で、スイスイと通り抜けます。

つ「見る価値なし！（笑）」

～第四章～
快適な田舎道

湯来町を出るとすぐ、国道191号との重複区間です。
同時に旧･加計町（かけちょう）、現在の山県郡（やまがたぐん）安芸太田町（あきおおたちょう）に入ります。

この重複区間はそれほど長くなく、すぐに433号にもどり、加計の商店街をかすめて旧･豊平町（とよひらちょう）、現在の山県郡（やまがたぐん）北広島町（きたひろしまちょう）へと向かいます。

湯来町内で再び愚勇者にハンドルを預け、まったりと加計へ。
入るとすぐ、太田川（おおたがわ）と、廃線になった『ＪＲ可部（かべ）線』の線路（があった道）と並走します。

リ「ええ？　うそ。線路ってこの辺だっけ？」
つ「えーこれじゃないん。それっぽい幅だし盛り上がり方だし、あ、ほらほらあれ駅っぽい！」
リ「ほんまじゃぁ…」
つ「あーあ。線路取っちゃったんだなぁー…（寂）」

線路（だった場所）はときどき川の向こうなどに消えたりもしつつ。

191号（加計町内）から433号（湯来町）を振り返って。

191号と433号が再び分かれるところ。左が433号。

ちなみにここは、快適すぎて、写真撮りのがし地帯です（泣）

●津浪（つなみ）駅…某ミュージシャンの同名の曲のヒット共に密かに有名になった場所。ただし、ここのローマ字表記は『TUNAMI』です。

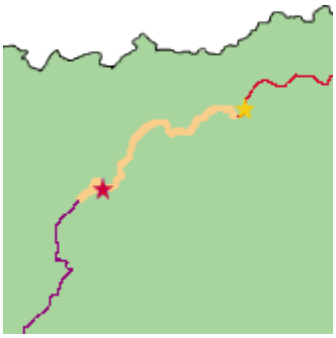
●川に向かって進入禁止…たぶん、線路がかかってたんですよ。橋で。でも、廃線になって取っ払っちゃったから。線路時代の『車両侵入禁止』の看板が、道などない川にむかって立っているという…！

つ「いいさ…また撮りに来るさ（泣）」

とかいってるうちになくなっちゃったりするんだよなぁ…。（汗）
加計の商店街をかすめ、ぼやきながらずんずん再び山道にさしかかります。

いよいよ、二ノ関も目前です。

～第五章～
二ノ関、分水嶺も越えて



勝手に二ノ関と呼んでるそこは、旧･豊平町(現在は山県郡北広島町)内。★部分。
確実に酷道レベルはUPしたその道を抜けると、分水嶺。そこから先の川は、日本海に向かって流れます。

難所以外は快適な田舎道。
分水嶺を過ぎると、旧･千代田町（ちよだちょう）、現在は同じく山県郡北広島町です。
ここでいったん、ほんのしばらく国道261号と重複。

再び433号にもどれば、酷道433号最大？！の難所★も目前です…。

安芸太田町（旧･加計町）から北広島町（旧･豊平町）にさしかかるあたりも実は、酷道だったんです。

が！

只今工事の真っ最中で、どんどん国道になっていってるのです！

とはいえ、山の中。
途切れ途切れの集落。

つ「あああ！　旧道が見えなくなったよ…！」

川の向こうで木々に隠れて埋もれてしまう酷道。

リ「あ、しまった、旧道行かんかったわ」
つ「い、いや、いいんだよっ！　無理矢理行くことはないさ、うん」
リ「あ、（旧道）出てきた」

はっきりいって、『よくこんなところに住んでるな…』と感心するような場所です。

工事区間を抜けた最奥には、農地圃場（ほじょう）整備のされた綺麗な集落。
いつ見ても不思議だ…！

この集落内で、道は鋭角に折れ、文字通り山の中へと道は続くのです。そここそが二ノ関！！　ふたつめの難所！

ここに橋が掛かってココだけ酷道は国道になるのだ。

この先に集落があるんだよ。

酷道433号・二ノ関は文字通り山道。対向車来たら泣く。そんなぐねぐねと続く道をひたすら登り、峠を越える。

つ「おおお！　さすが*　古い道の峠は石垣がきれいだ♪」

昔ながらの手積みの石垣と思われます。
なぜか峠のてっぺんだけこういうきれいな石垣ないですか？

リ「写真撮る？」
つ「うん。行ってくる★」

峠を少し過ぎたところに丁度路肩があったので、そこに車を休めて撮影です。(それがコレ←)

撮影を終えて車に戻ったところで――！

対向車！ΣΣΣ(￣□￣;)

・・・といっても二輪でしたけど。

つ「よかったー。停まっとって…！」
リ「二輪じゃけ大丈夫だったろうけどね」
つ「いやいや。うまくやり過ごせるに越したことはないよ、うん。」

運良く対向車はこの二輪一台。

リ「ぐあー！　抜けたー！！」
つ「おつかれー！　よし、じゃあ替わろうか」
リ「いや、いい。まだ行く」

共に片手で数えるくらいなら通ったことのあるこの酷道ですが、運転手の緊張感は、助手席の比じゃないですよね。
問題は道が狭いことではありません。いや、一台でも通るのが大変なくらい狭いと問題ですが。
常に願うのは兎に角、『**対向車来るな！！！(必死)**』コレに限りますw

というわけで、ハンドルは愚勇者リチャードのまま、ほとんど車の通らない田舎の道をぐんぐん進みます。

リ「あ、水車！」

撮らぬわけにはゆくまい。
車が来ない隙を狙って、道路の真ん中から撮影(笑)
うむ。
田舎だから許される行為だな。

リ「みて。バスが倉庫になっとるw」
つ「おお、ほんまじゃ(笑)　・・・撮っとこうか？」
リ「うん、おねがい」

水車のすぐ裏手の風景でした。

素敵な景色を後にして、道はまた上り坂。

そして。

分水嶺。
ココから先の川の水は、北――日本海に向かって流れます。
この碑を撮ろうとしたわけですが、そこには休憩中かと思われる測量のおじさんっぽい人が二人…！

つ（黙って撮るのは不審だよな。）

田舎ではむしろ、人に会ったら声を掛けましょう。

つ「今、国道433をずーっと大竹から辿ってココまで来たんですよー」
おじさん「ほぉー。(写真)撮っちゃろうか？」
つ「や、いいですよ。大丈夫でーす*」

小さな出会いを大切にしましょう*

満足に撮り終えていざ出発――！

と同時に、おじさんが話しかけてきた！
慌てて窓を開けるリチャード。

おじさん「433の終点ってどこんなるん？」
つ「ええーと、三次です！　三次市三次町交差点！」
おじさん「ほうかー、知らんかったのう。気を付けて行きんさいやー」　つ＆リ「「ありがとーございますー」」

小さな交流は大切にしましょう**

おじさん達に見送られて分水嶺を後にし、吉川元春本陣跡傍を通り、北広島町へと入ります。境は人里ながらやっぱり山の中。

北広島町（旧・千代田町）舞網（もつな）。
絵が般若なのは、ここが神楽の盛んな町だから。

国道261号との重複区間も実はわずか。

重複中の国道261号に立つ不吉な看板。

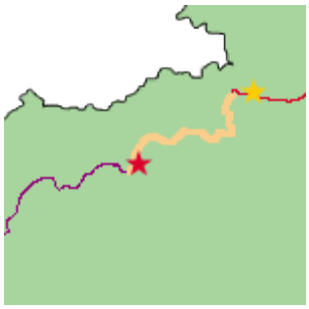
これこそが勝手に三ノ関と呼んでいる区間である。

しかし。
8km進むよりも手前からその片鱗はあります。
民家はまばら。
センターラインのない、車によっては離合が必要な狭い道幅。ガードレールはなくて、でもすぐ川があって、しかも高低差がそれほどない…。

つ「うわー…。ここ雨降ったらこわー（汗）」

雨後の旅でなくてほんとよかった…。

～第六章～
三ノ関・恐怖？の二重谷峠



おそらく、酷道433号の中で一番酷な道がこの二重谷（にえだに）峠★をはさむ、北広島町（旧・千代田町）惣森（そうもり）～安芸高田（あきたかた）市（旧・美土里町（みどりちょう））桑田（くわた）間（約5km）である。
なぜなら、冬季閉鎖されるから！！！！
そう。冬は通れないのだ。危なくて。
広島って、意外と雪降り積もるんですよ。中国山地を越えて島根に行く（通称：山越え）とかノーマルタイヤは自殺行為です。
なにげにここまでの道のりも、湯来町後半からずっと、どこも降雪積雪地帯です。冬場はスキー場も繁盛してます。この酷道以外にも、冬季閉鎖される道はままありますし。
二ノ関だって、閉鎖されないとは言っても、雪の日は危険極まりないのですよ。

美土里町を過ぎると、合併で同市内となった旧・高宮町（たかみやちょう）を抜け、終点のある三次市へと続きます。

・・・これが酷道の実態です。これでも『国道』です。

行くんだ。夕暮れのこの道を行くんだ。
出口を知ってるから、繋がってるって分かってるから行くけどさ、普通はこわいよw　ふふふ・・・

過去に一度、ヘタレ勇者は反対側から泣きながら通り抜けたことがあります。
愚勇者は、危険を感じて三次に引き返したそうです。

決死の突入、開始です。。。

――と。いきなりの恐怖！
いくらも行かないうちに軽トラと遭遇！　ついにバトル開始です…！

リチャードの攻撃！――とりあえず動かず、様子を見る。
軽トラのおじさんの攻撃！――いちど後方を振り返り、下がるそぶりを見せる。
　リ「さがってくれるかの…？」
軽トラのおじさんの攻撃！――窓を開け、ジェスチャーで此方に下がるよう指示。
　リ「だめか･･･」
リチャードの迎撃！――左後方、山ぎりっぎりまで車を寄せる。
軽トラのおじさんの攻撃！――じわじわと前進。もう少しもう少しと指示を出す。
つかさの支援！――助手席＝山側である事を活かし、限界確認。
　つ「う；　も少し寄れるよー（汗）」

♪~ちゃらりらりらりーん。（ＢＧＭ）

おじさんの勝利でバトルは終了。
しかし、結果これでよかったのです。
どうも、地の人っぽい方で、離合ポイントを心得ておられる様子でしたから。
すれ違いざまにも笑顔でこちらに手を上げてくださいました。

リ「うわー、焦ったー（滝汗）」
つ「ほんと…　うまく離合できてよかったねー（汗）」

ここまで酷でなくていいの。もっとソフトでいいの。ちょっと離合が必要なくらいの道って、逆に素敵じゃないですか？
人の心が試されるから*　停まるのは少し悔しい時もあるけれど、すれ違った後はいい気持ちになれることも多いから**

これでも国道。だから酷道。
それにしても、惣森（そうもり）という名前はカッコイイと思う（笑）

山の中が町境。境の多くは峠か川。ここは川…というか沢でした。

ここも、峠のてっぺんだけは綺麗な石垣。

リ「撮る？」
つ「うー・・・　いい。我慢する。またく・・・るかな (汗)」

これは賢明な判断でした。
峠を下り、まもなく酷道区間を抜けようかという付近に。
なにやら、人工の施設のような場所。
なんだろう？　と思いながら通り過ぎ、振り返ると。

つ「うわー！　く、くるまー！ΣΣΣ(◎□◎;)」

普通車の白いワゴンがそこから出てきたではないですか！
しかも、我々が越えてきた峠に向かって出発…！

リ「あぶねー (汗)」

そう。写真なんか撮ってたら、にっちもさっちも行かない山の中で、普通車相手に二度目のバトルを繰り広げるところだったのです。まさに間一発、ギリギリセーフでした。

一戦交えて三ノ関・二重谷峠を抜け、

つ「おつかれー。さすがに替わるよー」
リ「うん、よろしく・・・(疲)」

ただいま、人里！～その3
の美土里町→高宮町と、安芸高田市内をヘタレ勇者・つかさの運転で順調に通過します。

つ「なんかわるいねー。楽なトコばっかり私が運転してーw」
リ「ん、いいよ、次のとこは運転さしてあげるけんww」
つ「……。まー、それくらいは運転せんとね…」

リ「しかし、道って凄いねぇ。こんなずーっとつながっとって、何回通っても新しい発見があって…」
つ「ほうじゃねー。よく考えるとねー、ほんまそうよねぇ*」

しみじみw

――最後の酷道区間はまもなくです。

～第七章～
国道３７５号線を行く

安芸高田市（旧・高宮町）をぬけると、三次（みよし）市です。
同時に、国道375号との重複区間（オレンジ部分全て）となり、終点の三次町交差点まで、ほんの一瞬国道54号に会う以外ずっと、この375号をゆくことになります。
が。市街地に入るまでの375号（★付近）もなかなかの酷道っぷりです。

三次市に入ると、交差点に信号が復活します（笑）

リアルに、加計を最後に三次に入るまで信号はなかったような気がしますw

三江（さんこう）線の踏切を越え、橋を渡ると三次市です。

この橋も*
印象的で実は好き**
↓
↓
↓

酷道433号――重複の375号は、江の川（ごうのかわ）沿いを東へ向かう道で始まります。

つ「あれー！　工事かかっとる！　きれいになりよる！！」
リ「何千万か何億かかけて、いい道作りよるんだか（需要に見合わず）無駄になるんだか…」
つ「うーん。でもここはなおしても良いとおもうよー？　ちょこちょこ交通量あるし」

川沿いの酷道375号は工事の真っ只中。国道に生まれ変わりつつありました！
というか、前回およそ4年前に通った時より、確実に良い道が増えてます。通りやすくなってます。
が、まだまだ狭い道も健在で。

つ「ぎゃあー！　ばかばかばかばかばかぁー！！！（叫）」

すれすれの場所を、軽ワゴンがスピードを落とさずにやってきます。　こわい！！（汗）
とは言いながらさすが三次です。いくらかいけば、後ろに二台三台と車が繋がります。

つ「よし。露払いしちゃるけん、味方してぇよ！」

狭い道は、いっぱい台数居るほうが勝ちだよね！？（苦笑）

酷道を抜けると、信号一つ分国道54号と重複します。あっという間に54号に別れを告げると、三次の市街地突入です。
ゴール間近！　リチャードのナビで三次の街を進むとほどなく――

つ「あ、あれ？」
リ「うん、あれじゃろう」
つ「あったぁー！！」

リ「ゴォール！」
つ「わー！　おめでとー**」

幸いにして、終点、三次町交差点　そばにコンビニが！
迷わず入ります。そして走行距離の確認。

144.5km。
撮影のために行きつ戻りつもしたし、工事で距離が変わってると
こもありましたし、あえて旧道に挑んだ箇所もありましたし、誤差の範囲かと思われます。

時刻は午後5時半。　**無事、酷道433号は全線走破です！！！**　やったー！！

～終章～
寄り道満載の帰り道

とりあえず落ち着ける所に移動して、それから考えよう。
意見は一致したので、多少は土地勘のあるヘタレ勇者･つかさがそのまま運転。三次市内の大きなスーパーへ向かい、そこで作戦会議です。

つ「えーとねー、三次でごはんたべるならここと あそこと……
寄り道するんならあそこに有名なパン屋さんとか、あそこまでいけは竹うどんとかー、ちょっと遠いけどあそこまでいけば美味しいお土産とかー…」

いくつかの提案は、可能な限り消化しようということになり、

つ「ほんじゃまー、サクッと行くわ」

道を知ってると言っても、物理的に一時間近くかかる町、府中（ふちゅう）市は旧･上下町（じょうげちょう）、某スーパーにてお土産『つちのこ饅頭』、を購入。
愚勇者にハンドルを渡して戻ってくると、そのあいだに竹うどん屋さんは閉店。まぁ、田舎だし予想の範疇（苦笑）
そして、パン屋さんには直接行かなくても、最近これまたとあるスーパーで購入ができるようになったのでそちらで入手*

リ「まー。三次で食べて帰ろうか」

うどん気分だったので和食屋さんへ。
『かに釜飯セット』を頼んだら、注文の確認で**『かにかまセット』**と言われましたw 『めし』が抜けるだけでこんなにも変わるのかっ！！（笑）

つ「あとはもー、まっすぐ帰るよー？」

食後はヘタレ勇者の運転。車にも食事を与え、国道54号を使い、思いつくかぎりの最短ルートでまっすぐに広島へ。
…『思いつくかぎりの最短ルート』に初めて通る道＝夜道の大冒険が含まれるってどうよ（苦笑）

つちのこ饅頭売ってるスーパーには
こんな素敵なものがあるのだ（笑）
誰だよ、服着せた奴！（笑）

順調に広島に帰り、愚勇者リチャードと別れ、旅を終えて帰宅したのは午後11時過ぎ。

ああ、なんて阿呆な旅だったんだろう…！！！
しかしなんだ、この達成感と充実感は！（笑）

ま、冒険したし、Lv-UPには足りないものの経験値もたまったし、 阿呆勇者にはぴったりの旅だったよね（笑）————

♪~ちゃらららら　ちゃらら～ん（ED）

THE　END

おお、勇者よ！
きっと為してくれると信じていたぞ！

さて、次の冒険なんじゃがのぉ、・・・

・・・え？

…… to be continue ?

Powered by FC2.com